

モモの新品種 ‘おかやま夢白桃’ の育成*

笹邊 幸男・藤井雄一郎・各務 裕史・片岡 正治**・木村 剛***・紅谷 文夫****・平松 竜一**

A New Peach Cultivar ‘Okayama yume hakuto’ *

Yukio Sasabe, Yuichiro Fujii, Hiroshi Kagami, Masaharu Kataoka**
Tsuyoshi Kimura***, Fumio Benitani**** and Ryuichi Hiramatsu**

緒 言

岡山県の‘清水白桃’は外観が優れ、肉質良好で付加価値が高いことから、県下のモモ栽培面積の約3割を占める基幹品種となっている。しかしながら、近年の温暖化のため生育が早まり、進物需要によって高値が期待できる8月上旬には収穫が終了することがある。この時期の成熟日の違いは1日でも生産者の所得に大きく影響するため、筆者らは‘清水白桃’より後に成熟する品種の育成に注目している。現在、県内では‘清水白桃’に次いで成熟する品種として、県の推奨品種である‘白麗’や長野県で育成された大果で高糖度の‘川中島白桃’の栽培が多い。しかし、‘白麗’は生理的落果が多いことから、生産が不安定のうえ、年によっては成熟がやや遅すぎ、また‘川中島白桃’は成熟が‘白麗’より多少早く、‘清水白桃’の続いて収穫でき、生理的落果が少ないので、生産は安定しているが、果皮着色が多く、肉質が粗いため、品質がやや劣る。

そこで、果皮着色が少なく、肉質が良好な県産のモモの特色を有する品質良好な新品種を育成するため、当場では様々な組合せで交配を行い、有望個体を選抜してきた。その中で、‘川中島白桃’とほぼ同時期に成熟し、品質が良好な個体‘103-1’を育成した。この個体は2005年3月に‘おかやま夢白桃’として品種登録された。

育成経過

‘おかやま夢白桃（系統番号103-1）’は1981年～1984年にかけて岡山県立農業試験場（現岡山県農業総合センター農業試験場）において17品種61組合せで交配した514系統の中から選抜した。1981年に筆者の一人である片岡が‘う-9（白桃×布目早生）’に‘山根白桃’を交配して得た個体‘103-1’を育成した。その後、1992年までに果実品質が優れる18系統を一次選抜した。これらの系統は2個体ずつの複製個体を育成し、1989年から1997年まで二次選抜試験を行い、品質優良で、生理的落果が少なく、豊産な3系統（系統番号‘103-1’、‘265-3’及び‘105-1’）を選抜した。これらのなかで‘103-1’は、300g以上の極大果となり、糖度も高かったため、2005年3月14日に‘おかやま夢白桃’の名称で品種登録された。

特性の概要

1. 形態的特性

(1) 樹の特性

‘川中島白桃’と同じく樹姿は直立と開張の間の中間性であり、樹勢は強く、樹の大きさは大きい。枝梢の太さ及び節間長は中程度である。枝梢の色は赤褐色である。成葉の葉身の形は中で‘川中島白桃’よりやや短

*本報告の一部は平成16年度日本園芸学会中国四国支部大会で発表した。

現倉敷農業改良普及センター、*現東備農業改良普及センター、****現岡山県農林水産部

い。葉の大きさは中程度である。葉縁の波打ちは少なく、葉色は緑色である。蜜腺の形は球腎である。花形は普通咲きで大きさは中、'川中島白桃'より小さい。花弁は単弁で形は楕円形、花色は淡桃色、開花期は'川中島白桃'に比べて1～3日早い。育成地(赤磐市)において4月上旬に開花する。花粉はない(表1及び表2)。

(2) 果実の特性

果実の外観は扁円で、果頂部の凹は浅～中、梗あへの深さは深、広さはやや狭である。縫合線の深さは赤道部及び果頂部で浅い。果実の大きさは極大(約340g)で、果皮の地色は乳白色、着色は少で、濃さは淡い。着色の形はぼかしである。果実表面に細かい裂皮がわずかに発生することがある。果肉の色は乳白色で、果肉内の着色は

少程度、核周囲の着色は中程度で'川中島白桃'より少ない。果皮の剥離は容易で、'川中島白桃'より肉質は軟らかく、ち密さは中程度で繊維はやや少なく優れる。果汁は多く、甘味は強く糖度は平均14.1度あり、'川中島白桃'(13.9度)と同程度である。果汁のpHは4.6で酸味は強くない。渋味、苦味は無い。香気は多く、'川中島白桃'より多い。食味は「上(下(食味値は9段階評価で6.7)」で'川中島白桃'の「中(上(食味値6.3)」よりやや優れる。核割れは10%程度で少ない。核と果肉の粘離は粘核である。核の形は楕円で大きい(表2及び表3)。

表1 'おかやま夢白桃'と'川中島白桃'の樹の特性

品 種 名	樹姿	樹勢	樹の太さ	枝梢の太さ	節間長	成葉の葉身	葉の大きさ	葉縁の波打ち	蜜腺の形	花形	花の大きさ	花弁の形	花色
おかやま夢白桃	中間	強	大	中	中	中	中	少	球腎	普通咲き	中	楕円	淡桃色
川中島白桃	中間	強	大	中	中	長	中	少	球腎	普通咲き	大	楕円	淡桃色

表2 農試育成品種'おかやま夢白桃'の特性

品 種 ^{a)}	開花時期			花粉	成熟時期			果皮着色	裂皮	日持ち
	始	盛	終		始	盛	終			
おかやま夢白桃	4/7	4/9	4/15	無	8/7	8/10	8/13	少	微	良
川中島白桃	4/8	4/12	4/18	無	8/6	8/9	8/12	易	微	良
清水白桃	4/7	4/10	4/15	有	7/25	7/30	8/6	難	無	中
白麗	4/8	4/10	4/15	有	8/8	8/12	8/17	少	無	良

品 種	果実重(g)	糖度(Brix)	酸味(pH)	肉質		渋味	食味 ^{b)} (1-9)	核割れ率(%)	生理的落果
				硬さ	ち密さ				
おかやま夢白桃	337	14.1	4.6	軟	中	無	上中(6.7)	10.4	少
川中島白桃	349	13.9	4.6	中	やや粗	無～微	中上(6.3)	5.0	少
清水白桃	283	13.6	4.6	軟	密	無～微	中上(6.1)	38.9	中
白麗	307	15.4	4.3	中	密	無	上中(7.7)	14.8	中

a) 清水白桃、おかやま夢白桃、白麗は1992～2004年、川中島白桃は1992～1999年の平均。

b) 食味は1(下下)～5(中)～9(上上)の9段階評価とした。

表3 'おかやま夢白桃'と'川中島白桃'の果実特性

品 種	果形	果頂部の凹	梗あへの深さ	梗あへの広さ	縫合線の深さ		果皮の地色	着色の形
					赤道部	果頂部		
おかやま夢白桃	扁円	浅～中	深	やや狭	浅	浅	乳白	ぼかし
川中島白桃	扁円	浅	深	やや狭	浅	浅	乳白	ぼかし

品 種	果肉		核周囲の着色	果汁	香気	繊維の多少	核の粘離
	色	着色					
おかやま夢白桃	乳白	少	中	多	微	や少	粘
川中島白桃	乳白	少	多	多	微	や多	粘

2. 栽培上の特性及び留意点

‘おかやま夢白桃’の開花期は‘川中島白桃’より1～3日早く、花粉がないため、‘ゴールデンピーチ’などの開花が早い品種の花粉を用いて、人工受粉が必要である。満開～成熟までの日数は121～130日で、成熟盛期は育成地において8月上～中旬となり、‘川中島白桃’とほぼ同時期、‘清水白桃’と‘白麗’の間である。生理的落果、核割れとも少なく、‘清水白桃’より収量が安定している。果実の日持ちは良である(表2)。樹勢が強いため、成木に至る年数が短いと考えられる。また、果実肥大が良好で極大果を得やすいが、極大果とな

ると裂果・裂皮が発生しやすくなる欠点もある。‘おかやま夢白桃’の苗木生産は、2003年から岡山県果樹苗木生産販売組合に実施許諾され、県内生産者を対象に販売されている。

摘 要

岡山県で育成し、品種登録された‘おかやま夢白桃’は‘川中島白桃’とほぼ同時期に成熟する晩生品種で、果皮着色が少ないため、‘川中島白桃’に替わり‘清水白桃’と‘白麗’の成熟の端境を埋める品種として有望である。



図1 ‘おかやま夢白桃’の結実状態



図2 ‘おかやま夢白桃’の果実外観と切断面
(左上：果頂面、右上：側面、左下：横断面、右下：縦断面)